

1 - 1 1987 年 1 月 14 日の日高山脈北部の地震

The Earthquake in the Northern Part of Hidaka Mountains, January 14, 1987

気象庁札幌管区气象台

Sapporo District Meteorological Observatory, JMA

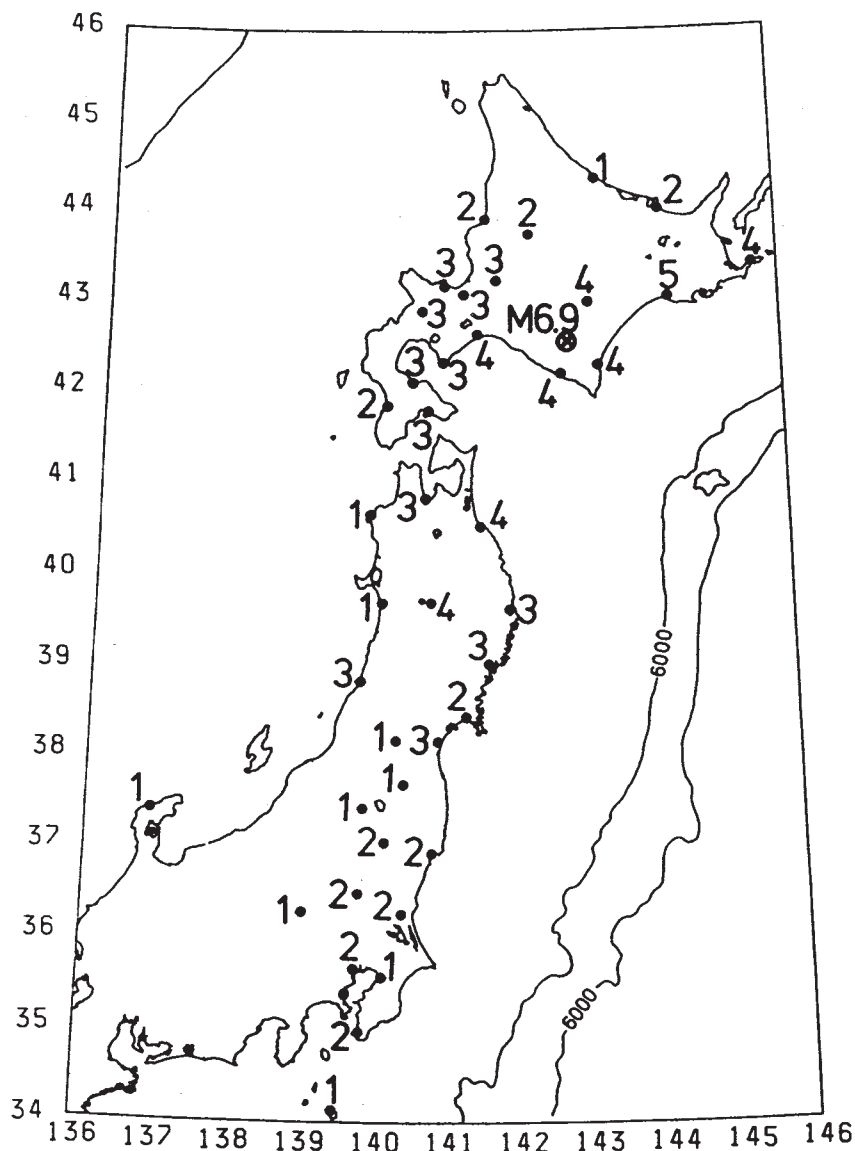
1 月 14 日 20 時 40 分頃，日高山脈北部（ $142^{\circ}55.7' E$, $42^{\circ}32.3' N$, $H=115\text{km}$, $O T = 20^{\text{h}}03^{\text{m}}49.8^{\text{s}}$ ）に M6.9 の地震が発生した。

第 1 図にみられるように北海道から東北，関東地方の広範囲にわたり有感となった。この地震の前震は観測されなかった。余震（すべて無感）の震源分布，余震の M 別時系列および回数減衰状況を，第 2 図から第 4 図に示す。

第 5 図に気象庁および北海道大学で得られた本震の初動分布を示す。（気象庁のデータは L アデスで収録した地震波形を札幌管区气象台独自で読みとったもので，気象庁の最終値と異なることがある）

第 6 図に発震機構を示す。第 7 図は過去の日高山脈から浦河沖にかけての稍深発地震面上での M5.5 以上の震央分布図で，主な地震には図中，発生年月等を記入して示してある。今回の地震は 1984 年の地震（M6.0）とほとんど同じところで発生している。

第 1 表に被害状況を示す。なお，被害状況の集約は，2 月 13 日現在のものである。



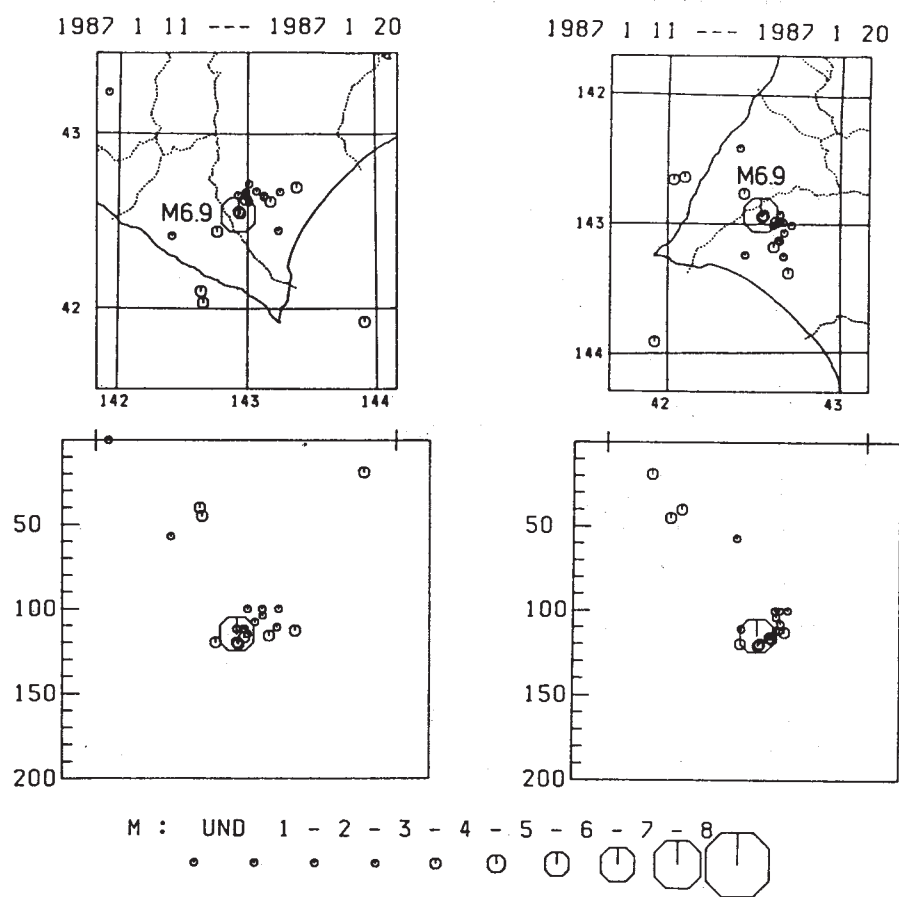
第1図 震度分布

各地の震度

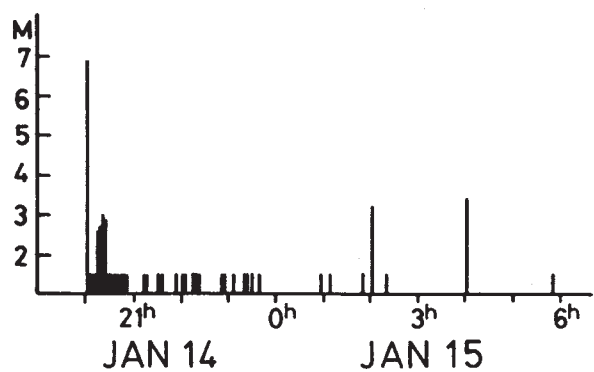
- | | |
|--------|---|
| 震度 V | 釧路 |
| 震度 IV | 帯広、広尾、浦河、根室、苫小牧、八戸、盛岡 |
| 震度 III | 札幌、岩見沢、小樽、倶知安、室蘭、森、函館、
青森、宮古、大船渡、仙台、酒田 |
| 震度 II | 網走、旭川、留萌、江差、石巻、小名浜、白河、
宇都宮、水戸、東京、横浜、館山 |
| 震度 I | 紋別、深浦、秋田、山形、福島、若松、
前橋、網代、千葉、輪島、三宅島 |

第1図 震度分布

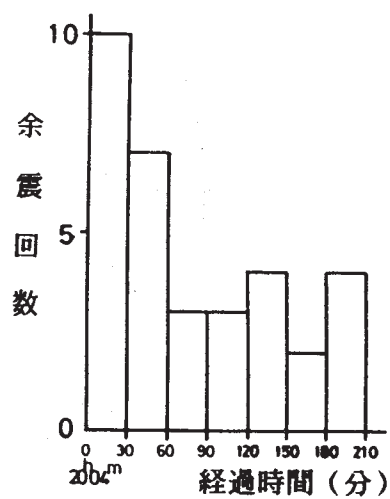
Fig.1 Distribution of seismic intensities.



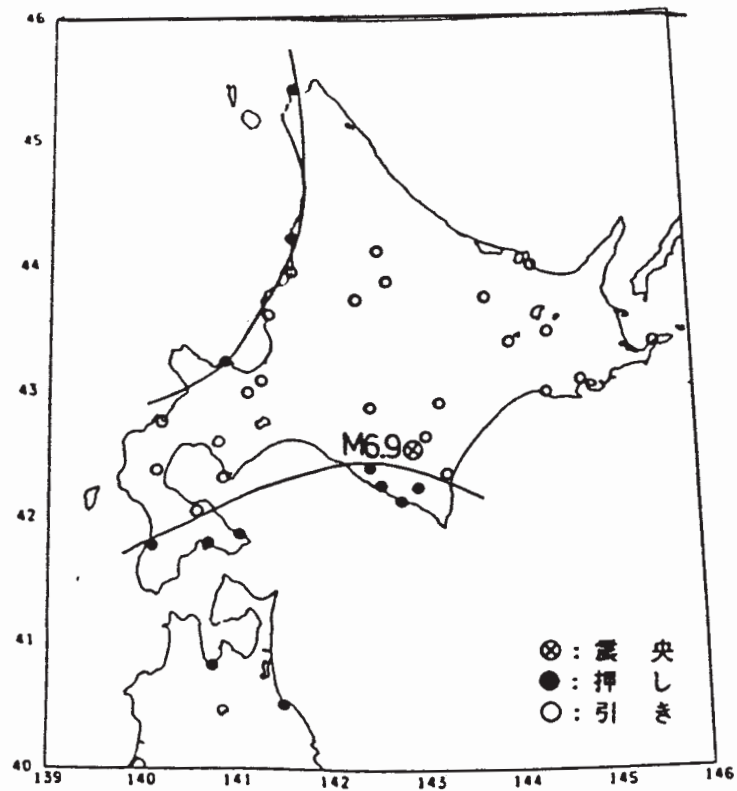
第2図 余震の震源分布
Fig.2 Hypocenter distribution of aftershocks.



第3図 余震の時系列
Fig. 3 Magnitude-time plots of aftershocks.

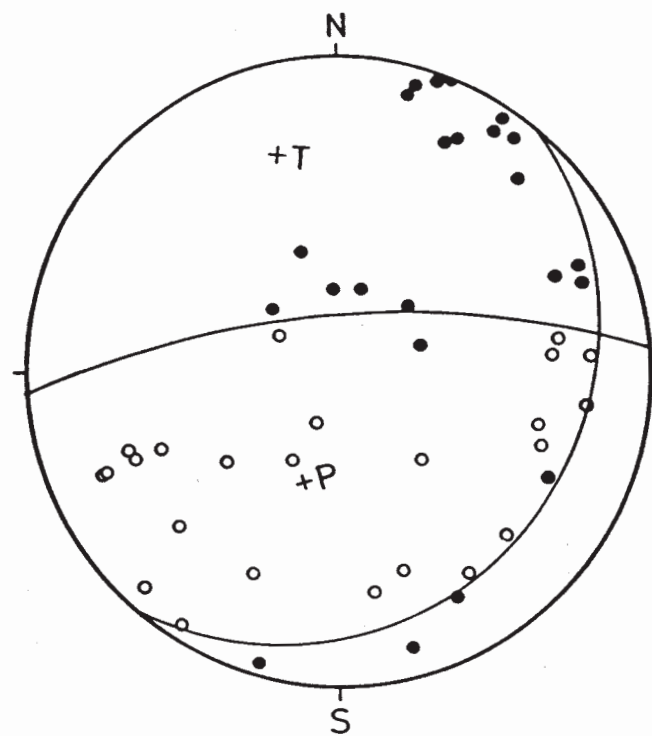


第4図 余震の減衰
Fig. 4 Frequency of aftershocks.



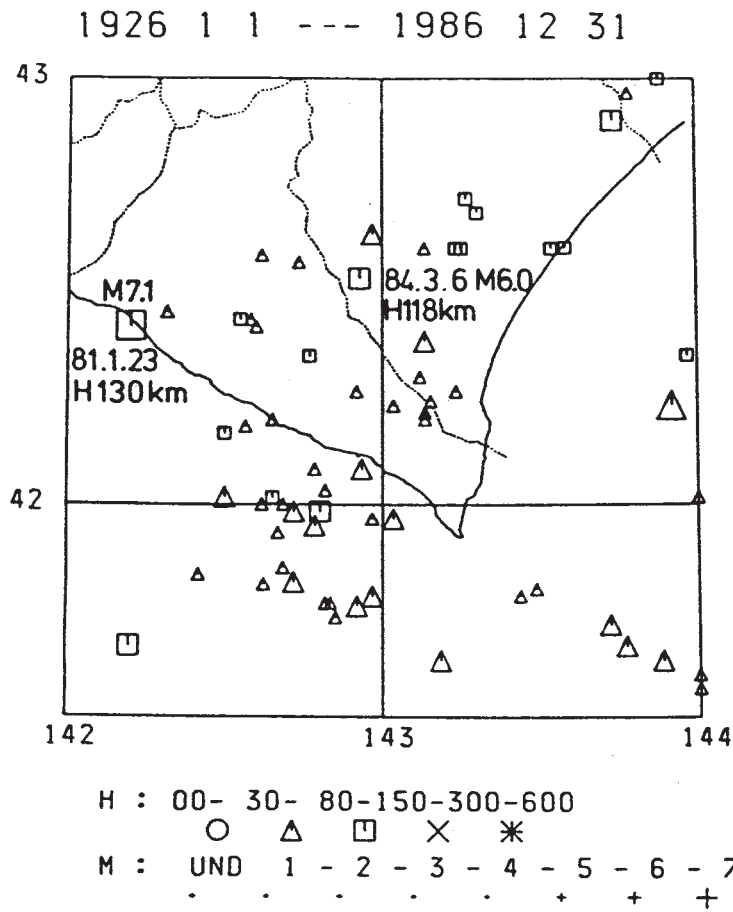
第5図 初動分布 (北大の地震データ含む)

Fig. 5 Distribution of initial motion (this figure includes data of Hokkaido Univ.).



第6図 発震機構 (下半球投影)

Fig. 6 Focal mechanism (lower hemisphere).



第7図 稍深発地震の震央分布（深さ50～200km，M5.5以上）

Fig. 7 Distribution of earthquakes whose depth is from 50km to 200km and magnitude is greater than 5.5.

第1表 被害状況
Table 1 Damage

被害項目	記	事
人的被害 重傷 2 軽傷 5		転倒して骨折（苫小牧），自動販売機が倒れ足骨折（帯広） ストーブの上のヤカンが落ち火傷（穂別，芽室，釧路），柱時計などの落下による裂傷（穂別2名）
建物被害		窓ガラス破損，壁の亀裂（今後増える可能性もある） 学校4（苫小牧，早来，穂別2）， 公共施設13（穂別3，早来2，他）
水道管の破損		8ヶ所（札幌，厚真，浦河，豊頃，浦幌3，帯広）
その他		店舗のガラス，ショーウィンドウの破損，商品落下による破損多数（苫小牧，登別，早来，厚真，鶴川，穂別，鹿追，音更，芽室，中類，浦幌，帯広） 農業用用水管の破損，ナメコ栽培用器の破損 小規模な表層雪崩，日勝峠，国道38号線（浦幌町）